

 株価は「偵察機」かもしれない

● 中級レベル

株価は「未来の期待」を先に映すことがある

NIGHT FLIGHT では、日経平均や TOPIX、業種別の値動き、出来高などを見えています。
でも、なぜ株価を見るのでしょうか。

答えは、

株価は、企業の未来を少し先に予想して動くことがあるから
です。

 会社の利益が増える前に株価が動くことがある

たとえば、半導体工場の建設計画が発表されたとします。

まだ工場は完成していません。

売上も増えていません。

利益もまだ出ていません。

それでも投資家は、

「この工場ができれば、製造装置の会社に注文が増えるかもしれない」

「電線や建設にも仕事が増えるかもしれない」

と考えます。

すると、実際の業績が変わる前に株価が動くことがあります。

だから株式市場は、

未来を先に見に行く偵察機

のように使えるわけです。

 でも株価は「答え」ではない

ここが重要です。

株価が上がったからといって、

その会社の利益が必ず増える

わけではありません。

投資家の期待が大きすぎることもあります。

工場建設が遅れる。

原材料費が上がる。

需要が思ったほど増えない。

競争が激しくなる。

こうしたことが起これば、予想が外れることもあります。

つまり、

株価は予想であって、結果ではない

のです。

日経平均だけを見ると、中身を見失うことがある

ニュースでは、

「日経平均が大幅に上昇しました」

と報道されます。

でも、日本のすべての会社が同じだけ上がったわけではありません。

日経平均は、特定の会社の値動きの影響を強く受けることがあります。

だから、

日経平均+2%

という数字だけでは、

市場全体にお金が広がっているのか

までは分かりません。

そこで TOPIX も見ます。

日経平均と TOPIX を比べる

TOPIX は、東京市場の幅広い会社の動きを見るための指数です。

たとえば、

日経平均が大きく上昇

でも、

TOPIX は少ししか上がらない

場合。

一部の大型株が日経平均を強く押し上げている可能性があります。

反対に、

日経平均だけでなく TOPIX も強いなら、

より多くの会社へ買いが広がっている

可能性があります。

つまり、

「指数が上がった？」だけでなく、「上昇がどこまで広がった？」を見る

わけです。

でました。「出来高」と「売買代金」

株価の方向だけではなく、

出来高

も見ます。

出来高は、

どれくらい株が売買されたか

を表します。

たとえば株価が 5% 上がっても、取引がほとんどなければ、少数の売買で価格が動いた可能性があります。

一方、

株価上昇 + 出来高増加

なら、

多くの投資家が参加した可能性があります。

そして、

売買代金

は、

どれくらいのお金が実際に売買されたか

を見るものです。

つまり、

値段

だけでなく、

量

も見るわけです。

 **一つの会社ではなく「業種」を見る**

半導体株が一社だけ上がった。

これは、その会社だけに良いニュースがあったのかもしれませんが。

しかし、

半導体。

電線。

建設。

機械。

銀行。

商社。

と複数の業種へ資金が広がったらどうでしょう。

これは、

大きな設備投資や景気の変化を市場が意識し始めている

可能性があります。

だから NIGHT FLIGHT では、

銘柄当て

よりも、

どの産業へ資金が移っているか
を見ます。

 でした。「資金ローテーション」

ここで新しい言葉です。

資金ローテーション

投資家のお金が、
ある業種から別の業種へ移ることです。

たとえば、

昨日は半導体が強かった。

今日は半導体が一休み。

その代わり銀行や商社が上がった。

この場合、

市場からお金が全部逃げた

のではなく、

市場の中でお金の行き先が変わった

可能性があります。

NIGHT FLIGHT 風に言えば、

資金が飛行機を降りたのではなく、座席を移動した
という感じです（笑）。

 「資金拡散」も見る

さらに、

一つの業種だけが強いのか。

それとも、

半導体。

銀行。

重工。

建設。

鉄鋼。

商社。

と、たくさんの業種へ資金が広がっているのか。

これも大切です。

一つの場所だけなら、

集中

です。

複数の場所へ広がれば、

資金拡散

と考えられます。

資金が広い範囲へ流れれば、市場全体の動きが強くなっている可能性があります。

 **ただし、株式市場には「期待」が入っている**

株価には、

今の利益だけでなく、

未来への期待

が入っています。

だから、

半導体株が上がった。

↓

実際の設備投資も増えた。

↓

受注も増えた。

↓

利益も増えた。

となれば、株価の先読みが正しかった可能性があります。

でも、

株価だけ上がった。

↓

受注は増えない。

↓

利益も増えない。

なら、期待が先走った可能性があります。

だから、

株価のあとを、実際の数字で追いかける

が必要です。

株価から「お金の血流」へ

NIGHT FLIGHT では、株価を見て終わりません。

たとえば、

電線株が強い

という信号が出た。

すると次に、

電線の受注は増えた？
工場の増産計画はある？
粗利は増えた？
利益は増えた？
設備投資は増えた？
と確認します。
つまり、

株価

↓

受注

↓

売上

↓

粗利

↓

利益

↓

設備投資

という流れです。

これなら、

株価の物語と実体経済をつなぐことができます。

🌟 中級レベルのポイント

株価は、

未来を先に見ようとする「偵察機」

として使うことができます。

でも、

株価上昇＝日本復活

ではありません。

見るのは、

日経平均だけ？

ではなく、

TOPIX は？

出来高は？

売買代金は？

どの業種が動いた？

資金は一か所に集中した？
それとも広がった？
です。
そして最後に、
本当に受注や利益が増えたか
を確認します。

そして最後の「？」へ

ここまで来ると、最初の 4158 兆円の疑問と同じ形が見えてきます。
4158 兆円という大きな数字だけでは、日本の豊かさは分からなかった。
日経平均という大きな数字だけでも、市場の中身は分からない。
だから、
大きな数字の「中身」を見る。
そして、
お金が、どこからどこへ動いたのかを見る。
これが NIGHT FLIGHT のレーダーです。

寄り道研究所

NIGHT FLIGHT SPECIAL II 【国内編】

● 中級レベル解説でした。

さらに、日経平均と TOPIX の違い、出来高・売買代金、業種間ローテーション、先行指標としての株価まで詳しく見たい方は、

● 上級～一般教養レベルへ。

 いよいよ最後の寄り道へ、ご搭乗ください。